



節目の年をむかえて

新十津川望郷会会長

新十津川望郷会 会報 第十四号

郷里のますますの発展を願つております。

「古きを尋ね、新しきを知る」

という言葉がありますが、これを機会に、望郷会として何か郷里のためにできる事業はないだろうかと考え、町の教育委員会と協議した結果、教育委員会が現在推進している「小・中学校図書室整備事業」にささやかですが、協賛することとしたのです。町の後継者となる青少年の育成にいさかなりとも手助けできればと考え、役員会及び総会の承認を頂き決定させていただきました。このことはすでに会員の皆様にお知らせしご協力をお願いしたところでございます。

高 棚 政 義

昨年は、開町百二十周年の節目の年であり、町が主催する多様な行事が実施され、古きを尋ねた年であります。先人の心情やご苦労のすべてを、現在の私たちが即理解できるものではありませんが、それなりに当時を偲んでみる機会を与えていただきいたことは、意義深いものがあつたと思います。あ

らためて、今日あるのは、苦労された先人のお陰であることを確認したいと思います。

私たち望郷会の会員は、現在町外におりますが、大なり小なり先人のお陰をいただき、今日にいたつておりますことを忘れることなく、

訪問し初回分の贈呈をいたしました。笑顔に満ちた子供の表情に接し、こちらも、嬉しい気持ちになります。今後も引き続きご協力を賜ります。

最後になりましたが、東日本一帯に大地震が発生いたしました。

在町の方や望郷会員の方で、先祖が東北の方も多くおられると思ひます。心からお見舞申し上げます。

一日も早い安定した生活ができますようお祈りいたします。

会員の皆様には、この節目の年を記念して子弟の教育振興のため、小・中学校へ図書室用の机・椅子や百科事典などのご寄贈をいただきました。開拓以来教育を重んじてきた町史に叶つたものであり、大変有り難く、心より感謝申し上げます。また、昨年の町民の活躍はめざましく、新十津川農業高校の生徒が考案した地元特産のインゲン豆を使つたプリンが商品化され、販売を通じて、同校と本町には、この記念すべき年に、新十津川中学校野球部が中体連全道大会で優勝し、八月に岡山県倉敷市で開催された全国大会に見事初出場するなどすばらしい節目の年で

平成二十二年度を初年度とする五年の継続事業として始めましたが、会員諸兄の特段のご協力をいたいた結果、初年度は予定額を超えて募金が集まりました。会員の皆様に厚くお礼を申し上げます。本年の二月、小学校及び中学校を

新十津川町長

望郷会報第十四号の 発刊にあたり

植 田 满

木々の緑も鮮やかさを増す爽やかな季節を迎えたが、望郷会員の皆様には、ますますご健勝のことをお喜び申し上げます。

昨年の開町百二十年記念式典に

は、望郷会の皆様はじめ、更谷十津川村長、窪田奈良県副知事、多田北海道副知事、鉢呂衆議院議員、橋本参議院議員など、総勢三百四十人のご出席を賜り、先人の労苦を偲び、共に町発展のお祝いができたことは本町にとりましてこの上ない喜びがありました。このほかにもたくさんの記念事業が催され、いずれも盛会裏のうちに終了することができました。

会員の皆様には、この節目の年を記念して子弟の教育振興のため、小・中学校へ図書室用の机・椅子や百科事典などのご寄贈をいただきました。開拓以来教育を重んじてきた町史に叶つたものであり、大変有り難く、心より感謝申し上げます。また、昨年の町民の活躍はめざましく、新十津川農業高校の生徒が考案した地元特産のインゲン豆を使つたプリンが商品化され、販売を通じて、同校と本町には、この記念すべき年に、新十津川中学校野球部が中体連全道大会で優勝し、八月に岡山県倉敷市で開催された全国大会に見事初出場するなどすばらしい節目の年で

もありました。

一方で基幹産業の農業は、記録的な猛暑の影響により、平年の収量を下回るなど、天候に左右される農産物生産の難しさを改めて痛感したところであります。

また、六月の記念式典にはかくしゃくと参列され献花いただきました新十津川町第二代町長で名誉

町民の濫川勝石翁が八月十一日に

突然ご逝去されましたことは、多くの方が驚きを禁じえませんでした。高度経済成長期の町政の振興発展に多大なご尽力をいただきました濫川様のご冥福を改めてお祈り申し上げます。

今冬は例年になく降雪量が極めて少なく穏やかな春の訪れを感じた矢先、三月十一日に発生しました未曾有の東日本大震災は、なんという自然の猛威でしょうか。大津波が次々と海岸を越え田畠・住宅を襲うその凄惨な映像を目の当たりにし、明治二十二年の十津川郷における大水害を彷彿し、家族や家財を失い、避難を余儀なくされた被災地の皆様のご心情を察した時、胸を詰まらせざにはいられませんでした。被災された皆様

に心よりお見舞い申し上げます。

いま、皆で心を一つにして、自分たちができることから今後の復興を支援すべきと存じます。本町も先人が多くの人たちの支援を励みとし、団結し、希望を捨てず開拓して今日があります。被災地の皆さんも必ずや素晴らしい復興を果たすものと確信いたしております。

さて、私こと、四月に行われました町長選挙におきまして、町民の皆様をはじめ関係各位のあたたかいご支援とご厚情を賜り再び町政の重責を担わせていただくこととなりました。時代は今、大きな転換期を迎え、地方行政を取り巻く諸情勢は極めて厳しいものがありますが、皆様から寄せていただきました信頼と期待に応えるべく微力ではありますが「創造と挑戦」をテーマに、元気溢れるまちづくりを町民の皆様とともに手を携えて進めてまいる所存でございます。

新十津川望郷会の皆様におかれましては、公私共にご多忙の日々をお過ごしのこととご推察申しあげます。

さて、今年は、本町議会議員の改選期で、議員定数を十二人から一人削減し一人に条例改正をいたしました。

議会議員の選挙結果については、本町では、はじめて議員の無投票でありましたが、これから議員及び議会のあり方など様々な問題等を今後取り組むことになると思います。

終わりに会員の皆さまのご健勝と新十津川望郷会のご発展をお祈り申し上げございさつといたします。

議会近況



新十津川町議会議長

長谷川 秀樹

新緑が映える季節となり、本町

も、大地に耕作音が鳴り響き活気ある時期に入りました。

新十津川望郷会の皆様におかれましては、公私共にご多忙の日々をお過ごしのこととご推察申しあげます。

また、議会については、定期議会を四回と臨時議会を七回開会いたしました。議案審議は、六十六件で、議会内容については、第一回定期会では、平成二十二年度予算審議、第二回定期会では、今年一月一日から施行の本町の規範であるまちづくり基本条例が制定されました。議案審議は、六十六件で、議会内容については、第一回定期会では、平成二十二年度予算審議、第二回定期会では、今年一月一日から施行の本町の規範であるまちづくり基本条例が制定され、今後まちづくりに対し、町民、行政、議員、議会がそれぞれの責務が明記され、今後は、それぞれの立場でどのようにまちづくりを進めるかが課題であります。

第三回定期会では、平成二十二年度の一般会計ほか四特別会計決算認定を承認いたしました。本町は、財政健全化指標も基準をクリアしており健全財政を維持しています。第四回定期会では、一般質

間で、植田町長の統一地方選挙の町長選二期に向けての決意及び立起の質問が出されました。

以上簡単ではございますが、町議会の近況をご報告させていただきます。最後になりますが新十津川望郷会のますますのご発展と会員皆様のご健康を祈念申し上げ会報発行のご挨拶とさせていただきます。

雑感



(新十津川望郷会副会長)
留萌市

川合正修

私は昨年の開町百二十年の記念すべき年に当会の役員としてご推举を賜りましたが、役員会の皆様や会員の皆様、そして事務局の皆様のお力添えをいただきながら、その責務を果たしてまいりたいと考えておりますので、何卒宜しくお願い申上げます。

さて、私は会報十号にて前副会

長の辻本弘道氏の投稿により、「望郷会の友と新春の盃を交わす」にて紹介されました旧橋本町の写真紅陽館、川合弘起の長男として出生いたしました。

自宅が郷土の銘酒「金滴酒造」の隣ということもあって、酒蔵が子供のころの遊び場であり、よく隠れんぼなどして遊んだものです。そして、杜氏さんからは出来たての「こうじ」を使用して甘酒を作つてくれたり、板粕を炭火で焼いて食べた記憶は鮮明に覚えており、金滴酒造には子供のころの想い出がいっぱい詰まっています。

生まれ育ったのが橋本町ですから過去に発刊された当会の会報に

『橋本町のグラウンド』(第三号上

杉孝儀様投稿)、や『橋本分教場と

夏と冬の遊び』(第十三号中井唯夫

様投稿)など、大変懐かしく想い出深い文章に、子供のころにタイ

ムスリップしたような錯覚さえ覚え、当時の状況が走馬灯のように、

次から次へと蘇えり、懐かしさのあまり何度も読み返しております。

故郷を懐かしんだとき、必ず頭に浮かぶのは、玉置神社のお祭りで見た獅子舞と独特な笛や太鼓

のリズムで、いまでも故郷の情景として胸の中にしつかりと焼き付けています。

しかし、以前、旧友から聞いた話では、その獅子神楽を維持する若者が少なく、伝統芸能を継承していくことが大変難しくなってきている…と。仮にこの話が事実ですと、少子高齢化の影響が無形文化財の伝承にまで及んでいることになり、誠に残念なことではあります。獅子神楽がなくなることはないと思いますが、今年のうちに今一度、ゆっくり見学しておきたいものと考えております。

子供の頃の橋本町での想い出は凄い人で盛会だった盆踊り大会、野外映画会の場所とりに昼間からゴザを敷いて陣取つたこと、そして何よりも強烈に覚えていることは、戦後我が家が国道の三差路の角にあつたことから進駐軍のアメリカ兵がよく自宅に道路を尋ねるために訪ねて来て、父が英語で会話をしている姿でした。私はアメリカ兵が怖くて物陰から見ていましたが、話しの最後にはお互い笑顔で握手している父の姿は、凄いと子供ながらに思いました。

想い出は尽きなく、次から次へと泉のように湧き出ますが、室生犀星の「ふるさとは遠きにありて思ふもの」の一文ではあります。せんが、故郷を離れてみて初めて『ふるさと』の良さや懐かしさが実感として込み上げてきております。

父が生存していれば百十五歳。昭和二十五年、開村六十年記念式典に於いて、文化功労者として父が表彰されており、その後六十年後になつて、少なからず因縁のようなものを感じております。

先述したように家業が写真館であつたため、当時、村内の七十七歳以上の高齢者約二百人を対象にそれぞれの自宅へ訪問して撮影し、記録に残つておりますが、写真を無料で写真を贈呈したと我が家を通じて地域の皆様と深い関わりがあつた父母を今は誇りに思つております。

想い出は尽きなく、次から次へと泉のように湧き出ますが、室生犀星の「ふるさとは遠きにありて思ふもの」の一文ではあります。せんが、故郷を離れてみて初めて『ふるさと』の良さや懐かしさが実感として込み上げてきておりました。

訃
報



新十津川町名誉町民元町長濵川勝石氏が死去

り、戦後の地方自治振興にご尽力されました。

その間、秀でた創造力と統率力を駆使され、健全財政の確立に努めつつ、治水事業の促進や道路整備、農業構造改善事業、農地等農業基盤の整備、畜産奨励、行政区会館建設、福祉・教育施設の拡充を図るとともに、過疎対策の推進にも尽力され、町政の伸展はもとより空知地域の興隆にも多大のご貢献をされました。

故人は、大正九年二月十六日樺戸郡新十津川村字上徳富でお生まれになり、新十津川村立新十津川尋常高等小学校高等科を卒業後、新十津川村から栗沢村吏員を経て、再び新十津川村に奉職され、その後海軍に応召となり終戦の昭和二十年に召集解除となりました。

昭和二十二年若干二十七歳の若さで助役に就任し、職員十三年、助役四期十六年、町長四期十六年を務められ、四十五年の永きに亘りました。昭和二十二年若干二十七歳の若さで助役に就任し、職員十三年、助役四期十六年、町長四期十六年を務められ、四十五年の永きに亘りました。

葬儀は町執行で八月十三日・十四日の両日、新十津川町農村環境改善センターにて、多くの参列者の方々、しめやかに執り行われました。安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

新しい町民の代表が決まりました。

今年、4月22日は、町長及び町議会議員選挙の投票日でありましたが、4月19日告示日時点で町長・町議とも定員数となり無投票当選となりました。

町長は、現町長の植田 満さんが再選されました。

町議会議員では、今回より議員定数が12名から11名に変わり、5月6日に行なわれた臨時議会において、町議会議長には、長谷川秀樹さん(新任)、副議長には西永勝治さん(新任)が選任されました。

また、副町長には、現副町長の佐川 純さんが再任されました。

(町議会議員)





新十津川望郷会では、開町百二十年を記念して、平成二十三年二月十五日高棹政義会長が新十津川小学校に出向き図書（百科事典十一冊）を寄贈いたしました。会長は、「開町百二十年を記念して、毎年少しづつだけど本を学校にあげようと決まりました。本を読み、みんなでしっかりと勉強していい町にしてください。」と児童会会长の斎藤真奈さん、図書委員長の向井理紗さんに手渡しました。また、新十津川中学校へは、校舎の耐震・大規模改修工事の完成に合わせて、十月に図書室用に机、椅子の購入を行いました。なお、購入金額については、別表のとおりとなっています。

開町百二十年記念協賛事業

この度は、新十津川小学校図書室にたくさんの本を寄贈していただき、誠にありがとうございました。寄贈していただいた本は大切に使います。また、たくさんの方の本を読んでたくさんの感動を味わいたいです。それから、勉強にも役立てます。今日は、本当にありがとうございました。

平成二十三年二月十五日

新十津川小学校図書委員長
向井理沙

新十津川望郷会の皆様へ
新十津川望郷会 図書贈呈式 お礼の言葉

新十津川望郷会開町120年記念協賛事業(平成22年度小・中学校図書室整備助成事業報告)

(収入)	寄付金 個人	85名	250,000円
	団体	1 団体 (札幌新十津川郷友会)	100,000円
(支出)	合計		350,000円

単位：円

学校名	納品日	品名	規格	数量/単位	単価	金額	支払日	購入先
新十津川中学校	H22.9.29	ライオンテーブル	DH-M1890RR	2台	48,960	97,920	H22.12.7	㈱イースト文具商会
"	"	ライオンチェア	No.49	8脚	11,160	89,280	"	"
"	"	寄贈プレート		11枚	200	2,200	"	"
"	"	消費税				9,470	"	"
"	"	小計				198,870	"	"
"	H22.10.18	丸座卓 崎玉福祉会	9150-5033	1台	20,000	20,000	H22.12.7	今野商事(株)
"	"	送料・運搬料		1式	5,000	5,000	"	"
"	"	消費税				1,250	"	"
"	"	小計				26,250	"	"
		中学校 合計				225,120		
新十津川小学校	H23.1.31	総合百科事典ボプラディア	新訂版	11冊	8,167	89,837	H23.1.31	㈱図書流通センター
"	"	"	新訂版	1冊	8,163	8,163	"	"
"	"	"	値引き			-2,940	"	"
"	"	消費税				4,753	"	"
"	"	小学校 合計				99,813	"	"
		総計				324,933		

新十津川望郷会開町120年記念協賛事業(平成23年度小・中学校図書室整備助成事業計画)

(収入)	(支出)
寄付金	200,000円
望郷会予算より	210,000円
合計	410,000円

学校名	品名	数量/単位	金額
新十津川中学校	ライオンテーブル	2台	
"	ライオンチェア	8脚	230,000円
"	丸座卓 崎玉福祉会	1台	
新十津川小学校	辞典	40冊	180,000円
"	動植物図鑑	20冊	
	合計		410,000円

新十津川町トピックス

~まちの出来事~

新中 初の快挙 全国大会出場

昨年、8月20日岡山県倉敷市で開催された全国中学校軟式野球大会に、新十津川中学校野球部が、初出場いたしました。1回戦は、栃木県上三川中学校と対戦し、3対0で惜しくも敗れましたが、チームワークを身上とするナインはよく精いっぱい戦いました。



開町120年記念事業

●「移住ウォーク」 6/26

120年前、市来知(今の三笠市)から空知太(今の滝川市)までを歩いて移動した先人の苦労を体験しようと、111人が参加して移住ウォークが開催されました。

この日は、三笠の道の駅から本町の菊水公園までの36kmコースと、同じく三笠の道の駅から奈井江の道の駅までの22kmコースが設定されました。

気温が30度を超える中、参加者は暑さや足の痛みと闘いながら、88人が完歩を果たしました



●健康しんとつかわ！みんなでラジオ体操 7/28

開町120年記念事業の1つ、健康しんとつかわ！みんなでラジオ体操が、ふるさと公園イベント広場で開かれ、参加者1,200人の声がラジオを通じて全国に生放送されました。

開会式で、かんぽ生命札幌支店の栗根勉さんは「ラジオ体操は昭和3年に制定され、83年が経ちました。元気で明るく体操したいと思いますので、よろしくお願いします」とあいさつをしました。

参加者は、体操指導者の多胡肇さんの掛け声と、ピアノ奏者の加藤由美子さんの伴奏に合わせて、早朝の新鮮な空気の中で元気いっぱいに体を動かしました。

●尚武会復活100周年記念式典 8/29

スポーツセンターで尚武会復活100周年記念式典が開かれ、剣士ら120人が参列しました。

尚武会は新十津川の開拓初期に結成され、日露戦争中に一度活動を中止したものの、明治43年に再結成されて、今年で100年を迎えました。

同会の白石昇会長は「新十津川の剣道は、むらづくり、まちづくりと共に歩んできたと言えます」と式辞を述べました。

式典後には、十津川剣道クラブと尚武会の交流試合（個人、団体）が行われ、剣士たちは竹刀を交えて日ごろの鍛錬の成果を競い合いました。

●なんでも鑑定団イン新十津川、タイムカプセル封入式 11/21

開町120年記念行事の最後を締めくくる、出張！なんでも鑑定団イン新十津川町とタイムカプセル封



入式がゆめりあで開催されました。

なんでも鑑定団では、鑑定士に中島誠之助さん、安河内眞美さん、永井龍之介さんが登場。応募346点から選び抜かれた6点が鑑定されました。鑑定結果が公開されると、超満員の会場は歓声と

大きな拍手に包まれました。

タイムカプセル封入式では、植田町長と小中学生の代表者4人が、カプセルに開町120年の「今」を詰め込みました。カプセルはゆめりあ正面玄関上部に設置され、30年後の開封のときを静かに待ちます。



新十津川出身者による母村（奈良県十津川村） 訪問ツアーアー

新十津川望郷会では、新十津川出身者による母村（奈良県十津川村）訪問ツアーアーを次の日程で計画いたしました。母村の奈良県十津川村に訪問してみたい方は、事務局まで申込み願います。

日 時 平成23年10月25日(火)から10月27日(木) 2泊3日

10月25日(火) 7時30分 集合（新千歳空港）

7時55分 新千歳空港出発

10時05分 関西空港到着

12時15分 檜原神宮駅到着



(関東地区にご在住の新十津川町出身者と合流)

奈良交通バスで十津川村に向かう

15時00分 天辻峠・天誅組史跡などを見学

16時00分 十津川村田谷瀬のつり橋・風谷ダム見学

17時00分 十津川温泉郷「ホテル昂」(電話0746-64-1111) 到着

10月26日(水) 8時30分 小辺路熊野古道巡り 玉置神社から瀧峡に廻り本宮大社を参拝。中辺路熊野古道伏拝、王子辺りを見学後

17時00分 湯泉地温泉「十津川荘」(0746-62-0035) 到着

10月27日(木) 8時30分 村内観光・民族資料館・道の駅で買物ご奈良
奈良交通バスで檜原神宮へ向かう

16時30分 檜原神宮駅出発

19時40分 関西空港出発

22時00分 新千歳空港到着

概算費用 100,000円

申込期限 8月5日(金)

※上記日程で実施いたしますが、詳細のタイムスケジュールは、変更する場合があります。

費用につきましては、申込期限後、参加者にお知らせします。

申込先 ☎ 073-1103 樽戸郡新十津川町字中央301番地1

新十津川町役場 総務課 総務グループ 新十津川望郷会事務局まで

電話 0125-76-2131 FAX 0125-76-2785

会員の皆様へ（お願い）

新規望郷会員のご入会を募るため、会員の皆さんで、小・中学校などの同窓会が開催されるときは、事務局まで、ご連絡をお願い申し上げます。

望郷会新規会員募集のチラシを送付させていただき、新規会員のご入会にご協力をお願いいたします。

新十津川望郷会役員

任期期間 平成22年6月20日～平成24年6月19日

(敬称：略)

役職名	氏名	住所	電話番号	備考
顧問	山本 敬一郎			前会長
	植田 満			町長
	長谷川 秀樹			町議会議長
会長	高棹 政義			
副会長	谷口 次雄			
	中川 昭五			
	増谷 俊秀			
	川合 正修			
理事	田崎 利勝			さっぽろ大和会会长・札幌郷友会会长
	篠内 豪			さっぽろ吉野会会长・札幌郷友会副会长
	和平 康伸			郷友会中央会会长・札幌郷友会副会长
	杉村 修			深川支部支部長
	玉堀 光夫			郷友会中央会副会长
	中井 唯夫			
	玉置 豊			札幌郷友会監査役
	西井 勝明			
	中川 芳継			札幌花月会会长・札幌郷友会副会长
監事	岡田 功			札幌郷友会事務局長
	村上 新一			砂川支部支部長
事務局長	佐川 純			副町長
事務局次長	熊田 義信			教育長
	藤沢 敦司			総務課長

※この情報は、個人情報保護の観点から、望郷会活動以外に使用することを禁止します。

新十津川望郷会会報第十四号を発刊するにあたり、役員並びに会員の皆様にはご投稿のご協力を賜り、心からお礼申し上げます。来年の十五号の発行に際しましても多くのご投稿をお待ちしております。

(原稿用紙を送付させていただきますので、事務局まで電話等でご請求くださいますようお願ひ申し上げます。)

編集後記

新十津川望郷会会報第十四号
発行
二〇一一年六月二十日発行
新十津川望郷会
〒〇七三一一〇三
新十津川町字中央三〇一番地一
新十津川町役場内
事務局長(新十津川町副町長)
佐川 純
印刷
広小路印刷株式会社
☎〇一二五一七六一二二三一

新十津川望郷会会報
第十四号